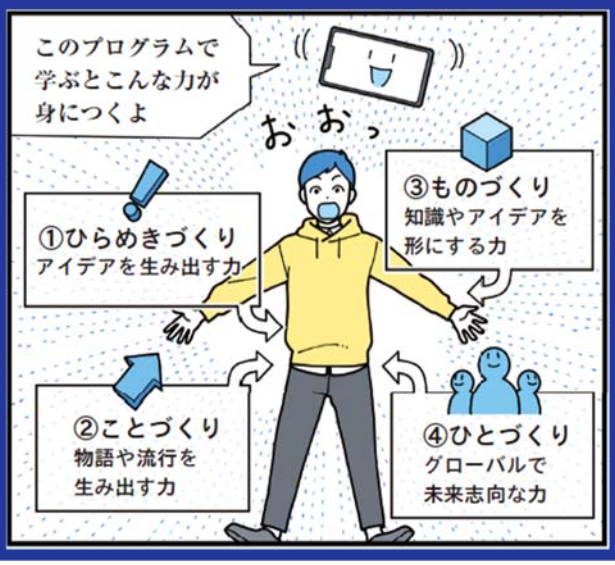
ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く

「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム

ひらめき・こと・もの・ひとづくりプログラム

「知識集約型社会を支える人材育成事業」
メニューⅠ・メニューⅡ 採択校シンポジウム

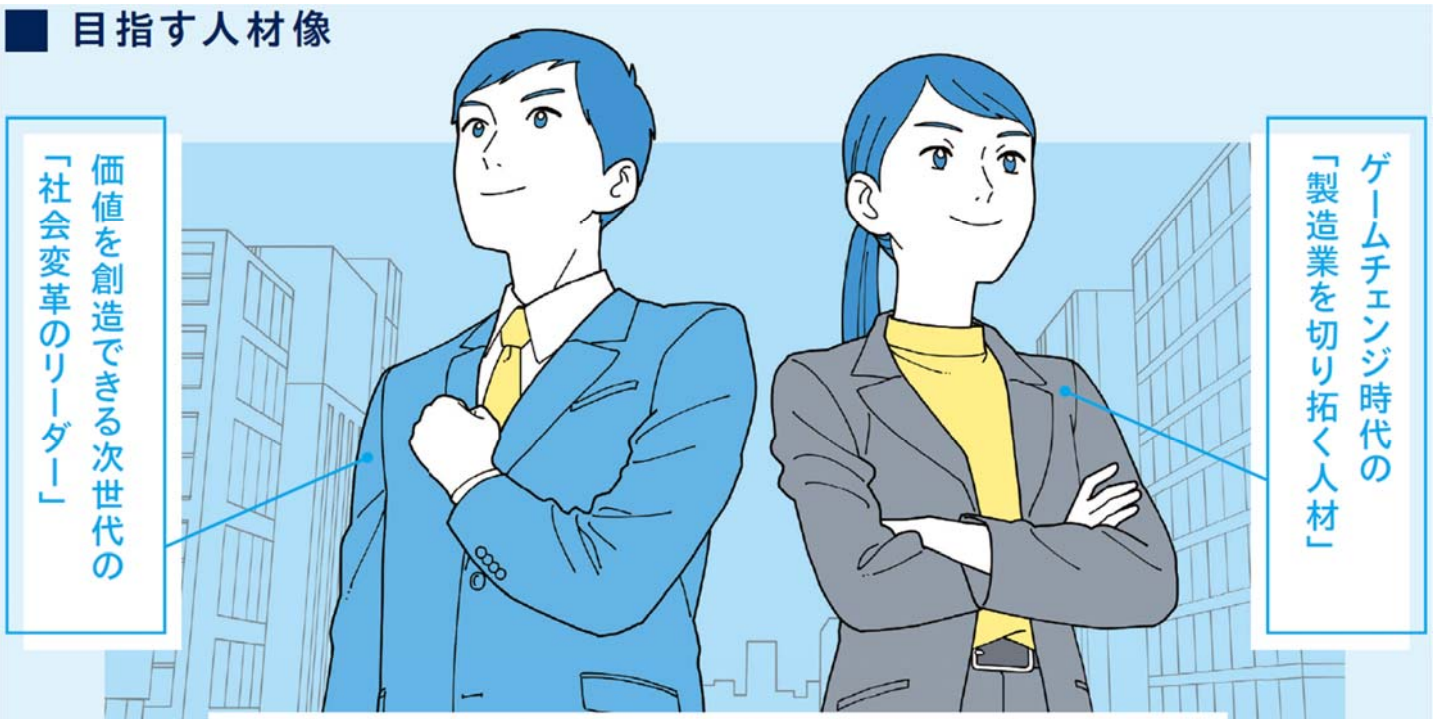
～社会共創を通した人材育成モデル構築を目指して～



知識集約型社会を支える
人材育成事業

超える、つながる、その夢に。
東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY
SINCE 1929

■ 目指す人材像

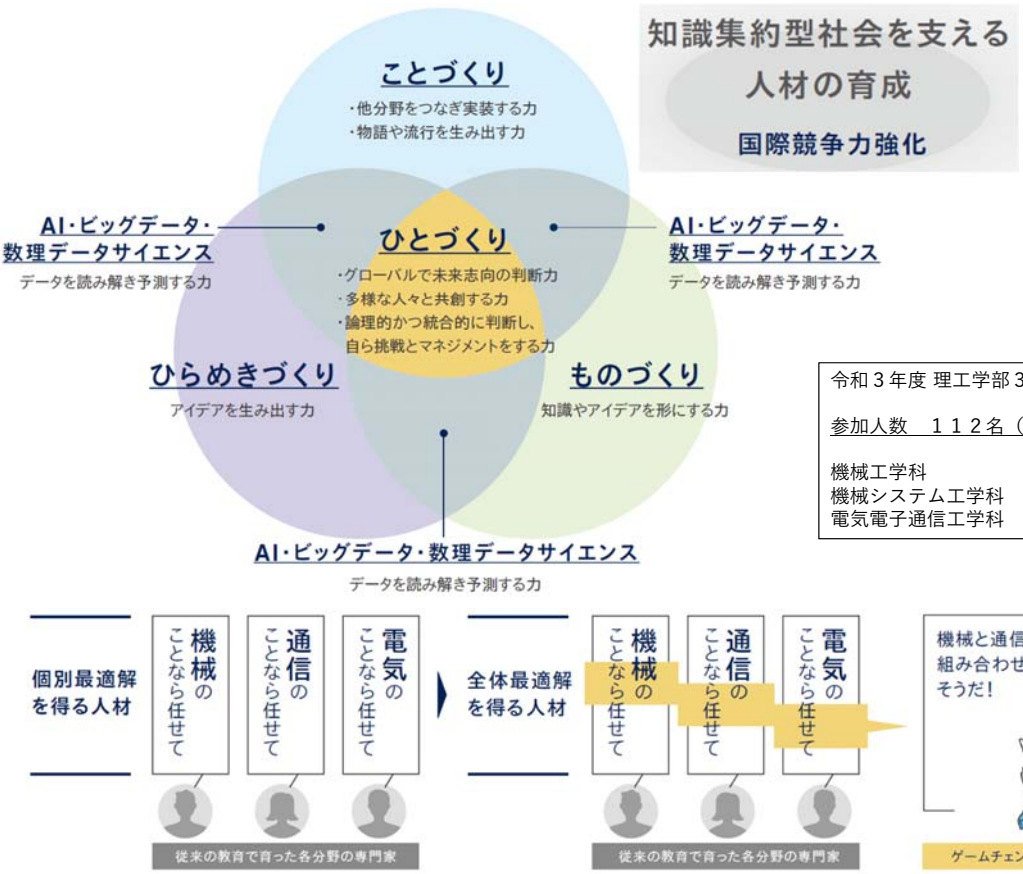


知識集約的な思考アプローチにより、全体最適解を得る人材

・革新的なイノベーションをもたらすソリューションを提案

・幅広い教養と深い専門性を両立

事業概要

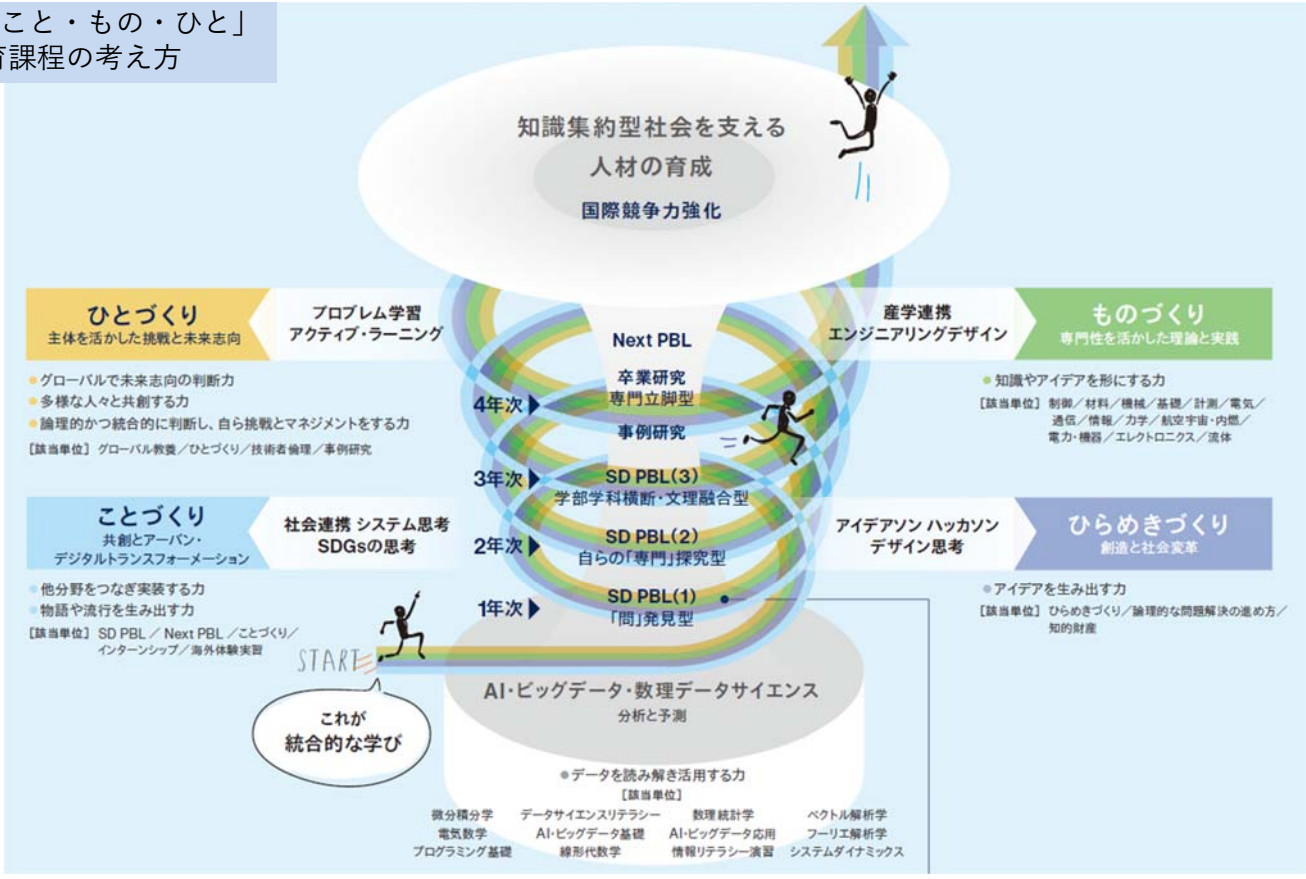


令和３年度 理工学部３学科から開始

参加人数　１１２名（５月現在）

機械工学科	３６名
機械システム工学科	１６名
電気電子通信工学科	６５名

「ひらめき・こと・もの・ひと」づくり 教育課程の考え方



「ひらめき・こと・もの・ひと」
づくり 教育課程の考え方
（科目群を人材像から再構築）

挑戦的な取り組みに社会も注目

カリキュラムの大きな特長は、各学科の卒業要件（124単位）を満たしながら、本プログラムも修了できるように制度設計されている点にあります。このために独自の科目も数多く開講。文理横断や分野融合をさせながら、幅広い教養と深い専門性を両立させた、理想的なカリキュラムを具現化しました。既に学外からも多くの質問が寄せられるなど、この挑戦的な取り組みは社会の注目を集めています。

統合的学びにより、修得できる力

プログラムを通じてこんな力を身につけます

複雑な状況を見定め
本質的な問題をみつける力

社会の細部までを見つめて状況を分析・理解できれば、社会に眠る新たな問題が発見できます。

解決策に辿り着くために
知識・スキルを学ぶ力

より良い社会を目指す強い想いと必要な知識・スキルを学ぶ力が、社会課題の解決につながります。

多様なバックグラウンド
の人と協働する力

多様なアイデアと専門知識を持つ人達が協力し合うことで、新たな発想が生まれます。

自らの価値観や社会が
目指す未来を見つめ直す力

自身や社会の描く理想が、正しい道を歩んでいるか。客観的に考え、問い直す力が重要です。

10年後・15年後の
自分が大きく変わる

新たな問題を見出して課題解決に挑戦し続けるイノベーターになるか、先進分野を牽引するスペシャリストになるか、チームや組織をまとめあげるリーダーとなるか、もしくはそれらを兼ね備えた多才な存在となるか——。SD PBL で培った力は社会を大きく変えるためにも、企業のビジネスをブラッシュアップするためにも活用できる力です。
卒業から 10 ～ 15 年後のあなたが描けるキャリアは、限りなく広がっているでしょう。

新規性、先進性
他大学への展開
評価方法

このプログラム、ココがすごい！

Point 1 新規性

- 従来の分類を人材像から見直し、新たに教科やシラバスを再構築
- 育成すべき人材像が明確
- 将来の目標に対して、バランスの取れたカリキュラムがバックキャスティング的に提供される

Point 2 先進性

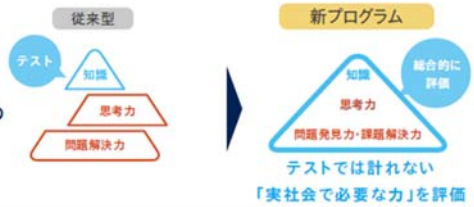
- 「AI・ビッグデータ・数理データサイエンス」を必修化
- 学部、学科、カリキュラム構成、学生の学修計画などについて、新しい提案

Point 3 他大学へ展開

- すべての取り組みをWeb公開
- 連携大学とのゼミなど様々な広報活動を行う
- 教員の交換プログラムを使い、海外の大学へ展開

Point 4 評価方法

テストで測る知識だけではなく、自分自身で考え実行する力を含め学習成果を総合的に評価



今後の展望、検証可能かつ明確な目標

今後の展望

この変革を、社会全体の変革に

本プログラムは2021年度に理工学部内の3学科でスタートした後、他学部・他学科へと拡大。2024年度には全学部で展開していきます。これにより、「ものづくり」の改革だけでなく、環境・都市・社会・生活・人間までを含めた「くらしづくり」の改革に挑戦。本学における教育制度の変更に留まらず、これからの社会に有益な人材を輩出していくことで産業界、そして社会全体の価値観の変革を目指していきます。

くらしづくりを導入

▼

全学部・全学科に展開

▼

社会全体を巻き込み、大学の価値観や社会が必要な人材像も改革していく

本プログラムで実現すること

1. 「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりを掛け算する教育とその統合的な学びの実現
2. 次世代の社会変革のリーダー、かつ、知識集約型社会を支える人材を育成
3. 体制整備、人材の確保、教職員や学生の意識向上、全学的な教学マネジメントの確立
4. 社会全体を巻き込み、教育改革をしていくことで、学生の主体的な学修意欲の向上
5. 「ひと」が共創することで、「ひと」が主役となる「安心」で「快適」な社会を築く

▼

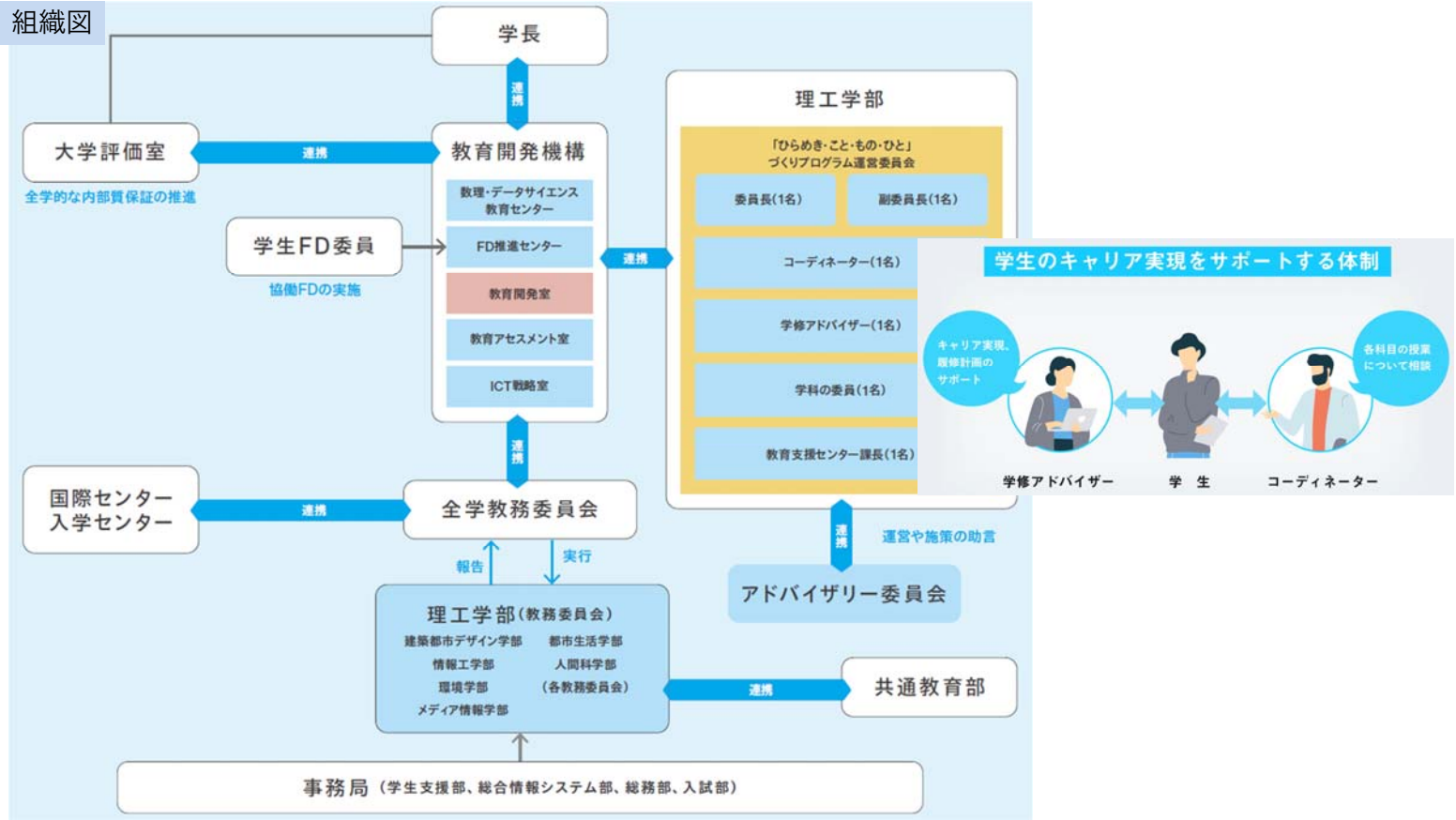
成果を告知し、国民にも広く周知して、社会を巻き込み、製造業を再生

大学の価値観変化と共に、産業界も巻き込んで、価値観を変革

検証可能かつ明確な目標

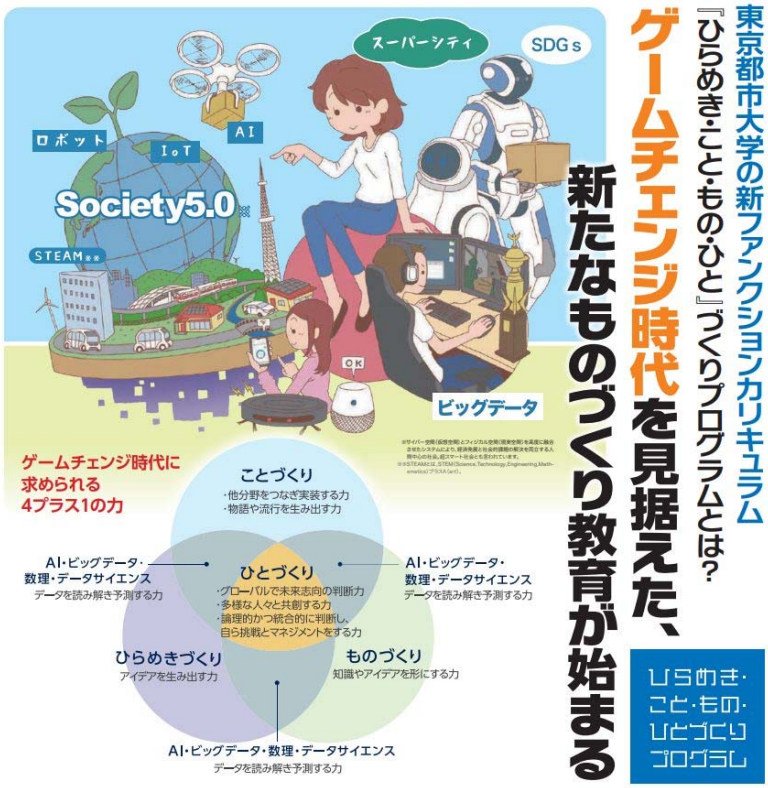
項目	内容
産学連携による科目の提供数	令和3年度［4科目］、令和4年度［10科目］、令和5年度［14科目］、令和6年度［16科目］
GPA	80％以上の科目にて、平均2.8以上
標準ルーブリックによる評価	プログラムの全科目にて行う
SD PBLの成績比較	プログラム参加者は非参加者より、SD PBLのf-GPAが0.5以上の高い評価となるようにする
自ら主体的に学び、統合的な学びや専門性を修得	プログラム参加者は非参加者より、授業評価アンケートで高い満足度や理解度となるようにする。
当プログラムの理念や5つの力を学ぶ意義の理解	プログラム自己理解度アンケートと面談により、理念や5つの力を学ぶ意義の理解や力が身についているかを効果測定する。

組織図



東急グループである本学の特色を活かした、東急全線での窓上広告

インターネットでの紹介
（大学ジャーナル ５月号 １面で紹介）



関東工学教育協会 産学協議会WG3 活動報告書に記載

「価値創造型リーダーを育成する」プログラムの提案

学内FDセミナー：令和3年3月25日(水) 開催

「ゲームチェンジャーへの扉を開くあたらしい「学び」のあり方」
約70名参加。本プログラムの学内周知と、有識者6名との意見交換。

第１回アドバイザリー委員会：令和3年3月25日(水) 開催

有識者である委員(11名)からのアドバイスをいただいた。

人材ニーズ調査（有識者ヒアリング）：令和3年2月実施

有識者(14名)ヒアリングにより人材ニーズを把握、PDCAを回した。

卒業生アンケート調査：令和3年3月実施

卒業生アンケートにより、本事業の課題を抽出、PDCAを回した。

日本工学教育協会 年次大会での発表（申込中）

価値創造型リーダー育成プログラム（３）
－東京都市大学 「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム
を例として－

外部評価委員会：令和3年8月 開催予定

「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム シンポジウム

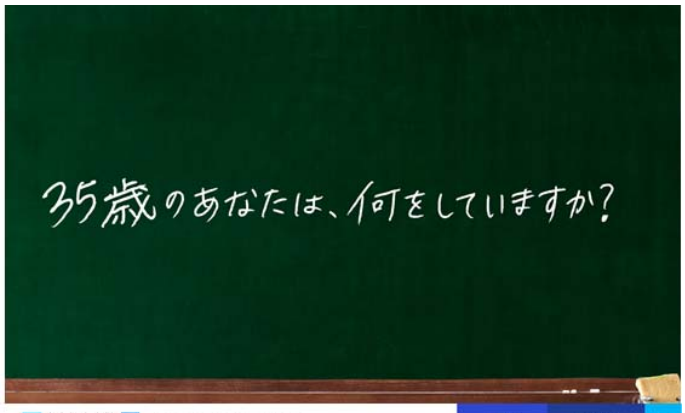
総合型選抜 にて、当プログラム向け入試 実施（予定）

「当プログラムの理解」を含めた入試を実施

全学FD・SDフォーラム：令和3年9月22日(水) 開催予定

全教職員が参加し、情報の共有、意見交換を行う。

本学主催シンポジウム：令和3年12月22日(水) 開催予定

第２回アドバイザリー委員会：令和3年3月(水) 開催予定

YouTube公開、ホームページの公開： https://hirameki.tcu.ac.jp/